令和6年大井町議会第3回定例会

一般質問書

令和6年8月

通告順	質 問 事 項	質問者	(分)時間	頁
1	・相和小学校の今後について ・湘光中学校における2025年の修学旅行について	大石 舞	60	1
2	・学校と保護者・関係団体の間における連絡手段等のデジタル化の推進について	重田有紀	50	2
3	・熱中症対策の推進について ・良好な生活環境の確保について	伊藤奈穂子	50	3
4	・大井町観光振興基本計画について	田中正彦	60	4

質問者	通告1番 1番 大石 舞 議員	通告時間 60分
		答弁者 町長・教育長
質問事項	1 相和小学校の今後について 2 湘光中学校における2025年の修学旅行について	
要 旨	1 教育委員会は2023年に相和小学校の今後について、今後5年間の児童数などの状況を見定めた中で、改めて検討する旨を公表した。小規模特認校制度の成果を分析し、制度を推進する中で、特色ある学校づくりに取り組み、魅力ある質の高い教育の充実に努めると述べている。そこで以下について伺う。 (1) 今後の児童数の推移を、どう予測しているか。 (2) 町における相和小学校の価値を、どう捉えているか。 (3) 小規模特認校制度の成果は。また、相和小学校独自の魅力や特色は。 (4) ゆめバス活用の効果は。また、通学手段の今後の展望は。 (5) 魅力発信の手法について、今後の展望は。 2 国から修学旅行先における大阪万博の活用について通知がされていると思うが、万博の計画地では、人工島・夢洲の西側工区で3月28日にメタンガス引火による爆発事故が起き、その後別の工区4か所でも低濃度のメタンガス検出が判明した。また、6月には会場内にヒアリが550匹出現している。子どもの命と安全を守る立場から、中学校の修学旅行について、以下のとおり伺う。 (1) 行き先の選定方法は。 (2) 安全対策は。 (3) 保護者への説明や周知は。	

質問者	通告 2 番	通告時間 50 分
	3 番 重田 有紀 議員	答弁者 町長・教育長
質問事項	学校と保護者・関係団体の間における連絡手段等のデジタル化の推進について	
要 旨	令和 2 年 10 月、文部科学省より「学校が保護者等に求める押印の見直し及び学校・保護者等間における連絡手段のデジタル化の推進について」という通達が発出された。 お知らせの配付、アンケートの集約、遅刻早退欠席の連絡等における改善が急務である。 デジタル化が進むことによるメリットは大きく、学校の事務手続きの効率化はもとより、PTA 等の関係団体との連絡、あるいは不登校状態にある児童生徒の家庭とのつながりという点においても、負担軽減が期待される。 そこで、以下のとおり伺う。 (1) 幼稚園、小中学校と保護者間における連絡ツールの現状は。 (2) おしらせ配付のあり方は。 (3) アンケートの集計方法は。 (4) PTA、地域学校協働活動推進員等との連絡手段として ICT 機器を導入する考えは。 (5) デジタル化に向けた新たなシステムの導入は。	

質問者	通告3番 13番 伊藤 奈穂子 議員	通告時間 50分
		答弁者 町長・教育長
質問事項	1 熱中症対策の推進について 2 良好な生活環境の確保について	
要 旨	1 気象庁の3か月予報によると8月～10月にかけて全国的に気温が高い傾向が続くとの予想が発表された。近年、気候変動の影響により記録的な猛暑が続く中、国内の熱中症死亡者数は増加傾向にあり熱中症対策は喫緊の課題であると考えます。 今後起こり得る気温の上昇も見据え、熱中症を予防する取組について伺う。 (1) 町民向けの熱中症予防マニュアル等の作成や、WBGT(暑さ指数)の認知度向上など情報発信が必要だと考えるが見解は。 (2) 高齢者に対し、熱中症予防を進めるための取組みは。 (3) 低所得者等に対し経済的支援としてエアコン購入費を補助する考えは。 (4) クーリングシェルターの設置基準と設置状況は。 (5) 学校における子どもの熱中症を防ぐ取組は。 2 大井町環境基本計画のアンケート結果では、気にかかる環境問題としてポイ捨てや不法投棄が上位となっている。特にごみ収集場所において分別の正しくないごみが不法投棄されて困るという声を聞く。そこで具体的な取組として防犯カメラの設置が有効だと考えるが見解は。	

質問者	通告４番 ９番 田中 正彦 議員	通告時間 ６０分
		答弁者 町 長
質問事項	大井町観光振興基本計画について	
要 旨	観光の「稼ぐ力、稼げる産業化」によって地域活性化への好循環を生むとされるなか、本年３月、大井町観光振興基本計画が策定され、観光事業の基本的方向性が提示された。大井町第６次総合計画や国の観光立国推進基本計画、県の神奈川観光振興計画及び県西地域活性化プロジェクトとの整合を図った計画としているが、基本計画であるがゆえに総花的な考え方が中心であり、いつまでに何をどのように進めるのか等の具体策が明らかでない。そこで次の点について伺う。 (１) 観光事業は、積年の課題として低生産性と人手不足を抱えている。このなかで、「稼ぐ力、稼げる産業化」をどの様に実現していくのか。対策としてマーケティング力の強化や観光DX推進が考えられるが見解は。 (２) 第４章基本施策の基本方針１のなかで「魅力ある観光拠点の創出」とあり、おおいゆめの里及び四季の里周辺を拠点にすべく、拠点エリアを定義付け、導入する機能を５項目挙げている。既存施設を活用しての計画と推察できるが、農産物直売所が抱える現状の問題点と改装について、考えを伺う。 (３) 本計画の中で随所に特産品やお土産品開発とブランド化とあるが、今後の展望は。	